

逕復者頃准

貴会社北京公所長牛島吉郎君來函内称四洮鐵路因鄭洮段工事進行之必要自本年五月三十一日至本日止由敝社臨時所墊付之工事款項及其利息(週年九釐五毫按日計算)応在本日成立之鄭洮段所要工事費墊款之交付款項内扣除等因查函開

弁法本部並無異議相応函請

查照此致

南滿州鐵道株式會社代表理事松岡洋右君

吳 毓 麟 啓

中華民國十二年十一月十五日

事項八 对中国文化事業關係

四六九 三月八日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

朱念祖及比陳延齡本邦教育視察ノ為派遣サル

ルニ付諸事好意的便宜与ヘラレタキ件

付記一 三月二十二日水野梅曉ト朱念祖トノ會談内容(東方通信社水野梅曉氏提出)

二 團匪賠償金ノ「請求權拋棄」ニ關スル解釈(未定稿)(外務省亜細亞局第二課作成ノ調書)

公第一三二號 (三月十七日接受)

大正十二年三月八日

在支那

特命全權公使 小幡 西吉(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

二月二十四日大總統令ヲ以テ本邦教育視察ノ為江西教育庁長朱念祖及教育部僉事陳延齡派遣ノ命ヲ受ケ近々北京出發ノ予定ナルニ付同人等ニ對シ本使ヨリ本邦教育當局及教育家ニ紹介ヲ得以テ視察ノ目的ヲ達セシメ日支教育ノ發展ニ資セシメラレ度旨今般教育總長彭允彝氏ヨリ書面ヲ以テ依

賴致越候朱念祖氏ハ明治大學政治科出身ニシテ民國元年以來各處地方官ニ任シ後參議院議員或ハ參議院外交委員長等

ノ要職ニ就キ曾テ革命嫌疑ヲ以テ安徽軍政執法処ニ捕ハレテ獄ニ投セラレタル所謂八議員ノ一人トシテ有名ナル人物

(目下議員ノ位置ニ在ラサルモ益友社ノ手腕家ノ一人ナリ)ニ有之今回ノ使命ハ帝國政府ニ於ケル團匪賠償金ノ使

途等ニ付テモ何等當局ノ諒解ヲ得ンカ為ニハ非サヤト思ハルル点モ有之候就テハ此ノ辺御含ミノ上可然御応答相成且

ツ關係當局ニ紹介ノ外諸事特ニ好意的便宜与ヘラレ候様致度尙同氏等ニ對シテハ直接本使ヨリ田中外務次官及赤司

文部次官東西兩大學總長宛紹介書ヲ交付致置候間是亦御承知相成度此段御依頼申進候也

(付記一)

三月二十二日水野梅曉ト朱念祖トノ會談内容

教育視察員朱念祖ト語ル

(三月二十二日水野梅曉氏提出)

昨二十一夜入京セル朱念祖ハ參議院議員ニシテ江西教育庁

長ヲ兼ネタル壯年政治家ニシテ党籍ハ民党タル益友社ノ中堅人物タルハ世人周知ノ事実ナルカ今回特ニ教育視察ノ名義ヲ以テ来京シタル理由ハ即チ今期議會ニ提出セラレタル對支文化法案ニ對スル支那側ノ希望ヲ我朝野ニ傳達センカ為ニシテ其最モ眼目トセル所ハ欧米カ既ニ先鞭ヲ着ケ居ル医療機關又ハ教育機關等ニハ到底庚子賠款ニテハ不足ナルヲ以テ日本ハ此際之ヲ有意義ニ使用スルニハ

第一 両国人ヨリ成ル使途調査委員會ヲ設ケテ慎重ニ研究セラレ度キ事

第二 事業トシテハ圖書館及博物館ヲ創立セラレ度キ事

註、此ハ圖書館トシテハ支那古学ノ保存ヲ謀リ博物館ニテハ古物保存ト同時ニ支那ノ天然研究ヲ試ミ動植物鉅等ノ標本蒐集及分付図等ノ作製機關ヲ附屬セシメラレ度シ

第三 留日学生ノ補助ハ特別機關ヲ設ケ学生ノ風紀及學業ヲ實際ニ監督シ得ル方法ヲ講スルコト

註、之ニハ支那ノ事情ニ精通セル日本人ノ理事又ハ委員ノ参加ヲ請ヒ其使途ト成功ト如何ヲ裏面ヨリ考察セシメテ力メテ之カ実績ヲ挙ケシムル事

相伊集院長官ノ會館修繕ニ對シテ多大ノ同情ヲ表サレタルノミナラス日華學會ノ江口白岩両氏カ熱心ナル援助ヲ与ヘタルニ感激シ其結果馬伯援ハ歸國シテ上海ノ余日章、王正廷、北京ノ黎總統、張總理、黃郛、馮玉祥ノ六氏ニ向ッテ右ノ次第ヲ報告シ余日章ハ日本ノ法案通過ト支那ノ希望カ容レラルレハ直ニ其ノ手続ヲ調ヘテ来朝スル迄ニ内交渉ハ進ミ居ル旨馬、朱兩人ハ内話セリ

右御參考マテニ大要ヲ認メ貴覽ニ呈シ候也

(冒頭欄外註記)

支那側ノ希望ノ如クセバ費途ノ監督又ハ分取リ運動ノ防止ニ極メテ好都合ト思ハル

(付記一)

団匪賠償金ノ「請求權拋棄」ニ関スル解釈(未定稿)

(外務省亜細亞局第二課作成ノ調書)

大正七年當時ノ寺内内閣ニ於テハ夙ニ日支兩國ノ親善ヲ増進セムトスル根本政策ヲ具體的ニ中外ニ宣明シ其ノ誠意ノ存スル所ヲ支那朝野ニ徹底セシムルノ必要ヲ認メ支那政府ニ對シ団匪事件賠償金ノ今後受領スヘキ元利金ヲ拋棄スルコトヲ以テ一ノ適切ナル措置ナリトシ同時ニ一千万円ノ低

ト云フニアリテ稍々右ノ如キ大綱タニ定マラハ前清時代ニ唐紹儀カ米國ノ庚子賠款一部還付ニ對スル謝恩使トシテ渡米シタル例ニ仿ヒ余日章ノ如キ國民的代表人物ヲ派遣シテ日本國民ニ向ッテ感謝ノ意ヲ表シ併セテ支那ノ國民ニ對シテ日本ノ厚意ヲ社会的ニ闡明シ此機ニ於テ兩國ノ國民的諒解ニ資シ度キト云フニアリ

右ハ本日往訪セル際来京ノ真意ナリトテ極メテ秘密ニ内話セル談話ノ要領ナリシ

因ニ陳延齡ハ約十日以後ニ於テ着京スル由ナル其裏面ニハ二十一条問題ノ為両院カ文化法案ヲ否決スルモノニ非サヤトノ懸念ヨリ陳ハ一步其出發ヲ遲ラシタルモノノ如シサレト一面ニハ之ヲ機會ニ二十一条問題ノ形勢觀望モ其裏面ニ含ミ居ルハ勿論ト察セラルルモノハ敢テ吾人ノ問フニ非スシテ寧ロ此際正面ヨリ其來意ヲ聴取シ取ルヘキ点ハ之ヲ取り出來ル事ナレハ從來親米系ヲ以テ全國銀行公會會長兼全國商務總會會長タル余日章カ賠款還付ノ謝恩使トシテ國家及國民ヲ代表シテ渡日セシムルハ將ニ来ラムトスル排日氣勢ヲ殺ク上ニハ予想外ノ効果アルヘシト信ス

而シテ事ヲ玆ニ運ハシメタルハ青年會幹事馬伯援カ内田外

利資金ノ貸付ケ右貸付金及賠償金免除額ヲ基本トシ支那政府ヲシテ(イ)産業ノ開發(ロ)鉅山ノ開掘(ハ)教育上ノ施設等ヲナサシメムトノ希望ヲ有シタル処支那政府ヨリハ日本ニ於テ右賠償金ヲ拋棄スルニ於テハ之ヲ以テ棉花栽培、緬羊繁殖ノ奨励、地質ノ調査及實業教育ノ振興ノ費用ニ充テ尚漸次ニ釐金其他通過税ノ廢止、田賦其他諸税ノ整理ニヨリ財政ノ確立ヲ図リ且金貨本位制度ノ確立ヲ期スヘキ旨ノ内意ヲ非公式ニ(西原ヲ介シテナラム)漏シ来レリ尤モ當時直チニ右賠償金ヲ拋棄スルハ未タ其時機ニ非ストナシ只主義丈ヲ決定シ置クヲ得策ト認メ大正七年九月十九日ノ外交調査會ニ附議シタルカ同會ニテハ單ニ左ノ如キ簡單ナル決議ヲ見タリ

適當ノ時機及適當ノ條件ニ於テ賠償金ヲ拋棄スルニ異議ナキコト條件ノ内容並実行ノ時機及手続ニ付テハ懸案トシテ攻究ヲ尽スヘキ必要アルコト

右決議ニ基キ同月二十一日後藤外務大臣ヨリ章支那公使ニ對シ左記ノ如キ非公式覺書ヲ手交シタリ

帝國政府ハ日支隣交ノ増進ニ眷々タルノ衷情ヲ表彰セムカ為追テ適當ノ時機ニ於テ義和團事件賠償金ノ請求權ヲ

拋棄スルノ内意ヲ有ス其ノ弁法ニ至リテハ更ニ考量ヲ尽クシ決定セムトス

右ニ対シ章公使ヨリ支那政府ニ伝達シ更ニ別紙甲号ノ通同政府ヨリノ謝意ヲ表シ来レリ

右後藤外務大臣ノ覚書中ニハ「請求權ヲ拋棄ス」云々トアリ語弊ナキニ非スト雖前述ノ如ク當時政府賠償金ヲ全然無條件ニテ支那側ニ還附セントスルカ如キ意向ヲ有シタルニ非スシテ日支ノ親善ニ資セムカ為適當ナル条件ノ下ニ弁法ヲ講シ主トシテ之ヲ支那人ノ便益ニ使用スルコトシ從來ノ如ク日本政府自身ノ便宜ノ為ニ之ヲ請求使用セントスルノ考ヲ拋棄スルノ内意ヲ有シタル次第ニシテ後藤外務大臣ハ前述ノ如ク單ニ帝國政府ノ内意ナリトテ非公式ニ之ヲ章公使ニ漏サレタルニ過キスシテ右ハ何等帝國政府ヲ拘束スルモノニ非サルコト勿論ナリ其後帝國政府ニ於テハ賠償金ノ処分方法等ニ付考慮ヲ尽シタルカ之ヲ主トシテ支那人ノ為ニ最モ有効ニ使用スルニハ手続上一旦帝國政府ノ歳入トシテ受入レ歳出予算ノ成立ヲ俟チテ全然之ヲ対支文化事業ニ用フルコト最モ適當ナリト認メタリ偶々大正十一年六月十九日支那政府ヨリハ別紙乙号ノ通更ニ二ケ年間支払ヲ延期

後モ從來同様自身ノ便益ノ為ニ之ヲ使用シ得ル訳ナルカ斯カル解釈ハ帝國政府ノ採ラサル所ニシテ政府トシテハ前記ノ如キ解釈ニヨリ之ヲ全然対支文化事業ニ使用スルヲ適當ト信スル次第ナリ

(別紙甲号)

中華民國七年九月二十一日在本邦章公使ヨリ後藤外務大臣宛書翰訳文

後藤外務大臣ノ義和團事件賠償金ノ請求權拋棄ノ内意アル旨ノ章公使宛非公式覚書ニ対シ謝意表明ノ件

以書翰致啓上候陳者本日御手渡相成候覚書ニヨレハ貴國政府ハ日支善隣ノ実ヲ増進シ其ノ眷々ノ衷情ヲ表明セン為茲ニ適當ノ時機ニ於テ團匪賠償金ヲ拋棄スルコトニ内定相成尚ソノ方法ニ至リテハ考慮ノ上御決定致サルル趣聞悉致候右ハ真ニ貴政府カ國交ヲ眷念致サルル懇情ニ出ルモノト欽佩ノ至ニ不堪直チニ本國政府ニ電達シ訓令ヲ俟チテ更ニ御通達可致候茲ニ不取敢感謝ノ意ヲ表シ且ツ貴大臣ニ対シ特ニ敬意ヲ表シ候 謹具

中華民國七年九月二十一日

中華民國特命全權公使 章 宗 祥

外務大臣男爵 後藤新平閣下

サレタキ旨申出アリタルニ付帝國政府ハ種々考究ヲ加ヘタルカ関稅増徴ノ実施モ近カリシヲ以テ他關係國ト同様右申出ヲ拒絕シ其代リ過去五年間ノ延期額ハ之ヲ繰下ケ支払ヲ受クルコトニ異存ナキ旨ヲ回答シ(別紙丙号及丁号)尚在支小幡公使ヨリハ再三支那当局ニ対シ該賠償金ハ対支文化事業ニノミ使用スル意向ナル旨ヲ説述シタルニ本年 月 日附公文ヲ以テ別紙戊号ノ通我好意ヲ謝スル旨ヲ回答シ来リタル次第ニシテ該賠償金ノ処理方ニ関シ支那側ト充分諒解ヲ遂ケタルコトハ之ニヨリ明ナルヘシ尚在本邦支那代理公使及同公使館員ハ帝國政府ニ於テ團匪賠償金ヲ財源トシテ対支文化事業特別會計ヲ設置セントスル意向ナル旨ヲ伝聞シ外務次官、亜細亞局長其他係官ニ対シ速カニ該特別會計法案及之ニ附帶スル追加予算案ノ議會ニ提出サレンコトヲ希望スル旨内話アリタル位ナリ次テ支那政府側ノ意向ヲ察スルニ余アルヘシ

若シ夫レ聞者ノ言ノ如ク「請求權ノ拋棄」云々ヲ帝國政府ノ歳入トセス之ヲ支那政府ノ自由使用ニ委セムトスル趣旨ナリト解シ然モ前述ノ目的ヲ達セムトスルニ於テハ今日ハ未タ到底其ノ時機ニ非スト云フノ外ナク從テ帝國政府ハ今

(別紙乙号)

中華民國十一年六月十九日額外交總長ヨリ小幡公使宛書翰訳文 團匪賠償金支払延期方申出ノ件

以書翰致啓上候陳者團匪賠償金支払延期ノ件ニ関シ本年十二月一日五ケ年ノ期限満了スルモ本國現時ノ財政狀態ヲ以テシテハ期限到来スルモ即時繼續支払ノ儀到底不可ニ付テハ熟考ノ結果更ニ二箇年ノ延期ヲ請ヒ窮乏セル財力ノ稍々恢復セル後何分ノ弁法ヲ商議スルコトニ被致度情誼素ヨリ敦厚ナル貴國政府ハ本國政府財政ノ窮乏ニ鑑ミ事情御諒察相成度此段及照会候条貴國政府ニ御轉達相成度御賛同ノ旨御回答ニ接セハ不堪幸之至候云々

民國十一年六月十九日

外交總長 顏

大日本帝國特命全權公使 小 幡 殿

(別紙丙号)

大正十一年十一月二十九日小幡公使ヨリ額外交總長宛第二二五号 中国ノ團匪賠償金支払延期方申出ニ対シ回答ノ件

第二二五号

以書翰致啓上候陳者庚子事變賠償金ニ関シテハ曩ニ千九百

十七年貴国参戦ノ際ニ於ケル必要ニ応スル為連合各国ニ対スル支払ヲ爾後五個年間猶予スルコト相成リ右ハ本年十二月一日ヲ以テ該期間満了ト相成候処貴国政府ニ於テハ財政上ノ困難アル趣ヲ以テ更ニ向フ二個年間はカ支払猶予方本年六月十九日附貴翰ヲ以テ御来照ノ趣致聞悉候然ル処本件ニ就テハ帝国政府ニ於テモ篤ト考慮ヲ加ヘ候得共今回ノ御申出ハ前回猶予ノ際トハ全然其ノ趣ヲ異ニシ其ノ理由彼是相同シカラサル而已ナラス現ニ関稅收入ニ就テハ爾来前後二回ノ関稅改訂ヲ經近ク新稅率ノ實施ト共ニ著シク其ノ收入ヲ増加スヘク特ニ困難ナル貴国財政整理ノ問題ハ不遠関稅二分五厘附加ニ関スル特別會議開会ノ節附議セラルルコトト思考セラレ加之帝国政府ニ於テハ本年十二月一日以後支払ヲ受クヘキ本件金額ニ付其ノ既定ノ財政計畫有之旁今俄ニ之方變更ヲ許ササルノ事情ニ有之候

就テハ右ノ次第二付折角ノ御申出ナルモ帝国政府ニ於テハ乍遺憾意ニ副フニ便ナラサル事情ニ有之候間右様御諒知相成度此段帝国政府ノ訓令ニ依リ回答得貴意候 敬具

大正十一年十一月二十九日

日本帝国特命全權公使 小幡 西吉

ノ希望ヲ容レ原定償還年度表中ニ在ル各年度ノ支払額ヲ順次五ヶ年宛繰下ケ一九四五年度ニ至ッテ全部ノ償還ヲ完了スルコトニ異存無之從テ客年十二月ニハ大正六年（一九一七年）十二月分ニ相当スル金額ヲ又本年度ニ於テハ大正七年（一九一八年）度分ニ該当スル金額ノ支払ヲ受ケ斯ク順次各年度割ヲ繰下ケ大正二十五年（一九三六年）迄ハ毎年元利合計金二百六十六万三千五百五十九錢宛ヲ又大正二十六年（一九三七年）ヨリ大正三十四年（一九四五年）迄ハ毎年金三百八十四万五千六百十六圓四十七錢宛（外ニ不足金六千八百二十三圓七十八錢アリ）ノ支払ヲ受クルコトト相成候

就テハ為念右ニ對シ貴国政府ノ確認ヲ得度併セテ右支払履行方ニ関シ至急該官憲ニ訓令方御取計相成度此段帝国政府ノ訓令ニ依リ照會得貴意候 敬具

大正十二年一月十日

日本帝国特命全權公使 小幡 西吉

支那共和国外交總長 施 肇 基 殿

（別紙戊号）

二月二十八日小幡公使宛内田外務大臣宛電報第一六八号（三月一

八 对中国文化事業關係 四七〇

支那共和国外交總長 顧 維鈞 殿

（別紙丁号）

大正十二年一月十日小幡公使ヨリ施外交總長宛第二号

团匪賠償金過去五年間延期額ハ之ヲ繰下ケ支払ヲ受クルコトニ異存無キ旨回答ノ件

第二号

以書翰致啓上候陳者曩ニ民国六年十二月十五日附貴部節略ヲ以テ同年十二月以降十一年十二月（即西曆一九一七年十二月乃至一九二二年十二月）ニ至ル庚子賠款支払猶予額ハ原定庚子賠款償還年度表ニ照ラシ順次之ヲ繰延ヘ即チ一九四五年ニ至リ全部償還ヲ完了セシムルコトセラレ度旨御来照ノ次第アリタルニ對シ當時帝国政府ニ於テハ右猶予全額ハ該五ヶ年支払延期期間満了後一九二二年十二月以降一九四〇年ニ至ル十八年間ニ分割償還スルノ弁法ヲ以テ公平妥當ト思考シ此旨大正七年一月二十一日附當館覽書ヲ以テ貴国政府ニ申入置タルハ予テ御承知ノ通ニ有之候処今般右五ヶ年間ノ支払猶予期間満了ト共ニ本件賠款ノ支払旧ニ復スルニ當リ帝国政府ハ現ニ貴国財政ノ情形ニ鑑ミ前記御来照ニ對シ更ニ好意的考慮ヲ加ヘタル結果特ニ本件貴国政府

日本省着

团匪賠償金五ヶ年宛繰下ケ支払ニ関スル我好意ヲ謝スル旨外交部ヨリ申越ノ件

第一六八号

往電第一五六号ニ関シ

外交部ヨリ团匪賠償金五ヶ年宛繰下ケ支払ニ関スル我好意ヲ謝スルト共ニ英仏側ニ對シテハ五ヶ年間ノ猶予額ハ一九四一年一月一日以後五ヶ年内ニ償還スルコトナリ居レルニ付帝国政府ニ對シテモ同一弁法ニ依ル様致度トノ旨回答アリタリ措置方御回訓アリ度シ

四七〇 四月四日 朱特使来談要領

日本ノ对中国文化事業ニ関シ中国側ノ希望陳

述ノ件

大正十二年四月四日朱念祖氏廖代理公使ト同道別紙書翰ヲ持參シテ外務大臣ヲ來訪シ大要左ノ通述ヘタリ

今回帝国議會ニ於テ對支文化事業特別會計法案ノ通過ヲ見タルハ支那政府ノ深ク感謝スル所ナルカ是ヲ支那ノ為

ニ使用セラレムトスル帝国政府ノ御参考迄ニ二三支那側ノ希望ヲ陳述シ度シ

該資金ハ之ヲ普遍的且永久的ノ事業ニ投セサル可カラサルモノト思考シ小サキ目前ノ事業ニ投スルハ甚タ好マシカラス大事業ニ対シ纏メテ之ヲ使用スル方其効果大ナル可ク例ヘハ圖書館、博物館ノ如キ計画ニヨリ支那数千年ノ文化ニ関スル資料又ハ其豊富ナル天然資源ニ関スル標本其他ヲ蒐集スルカ如キハ最モ其目的ニ適フ所以ナル可シ

若シ夫レ病院ノ如キニ至ッテハ其恩恵ヲ受クルモノハ一地方ノ病人ノミニシテ支那全般トシテハ有難味ヲ感スルコト如カク大ナラサル可ク米國ハ「ロックフェラー」醫院ヲ建設シ北京ニ於テ二百数十万円ヲ使用スレ共其效果決シテ大ナリトセス病院経営ヨリハ寧ロ医学校ヲ設ケ支那人医師ノ養成ヲ計ル方普遍的ナルヘシ(尤モ必スシモ医学校経営ヲ賛成シ居ル趣旨ニハ非サルカ如シ)

又救恤金ノ如キモ其恩恵ヲ受クルハ一地方ニ限定セラレ普遍的ナル能ハス且政府ニ於テ予メ資金ヲ準備シ置キ救恤ノ必要ヲ認メタル場合ニ之ヨリ支出サルルカ如キハ支

朱念祖等持参ノ三月十四日付彭教育総長ヨリ内田外務大臣宛書翰
日本ノ教育状況考察並団匪賠償金支払ニ関シ朱、陳特派ニ付便宜
取計アリタキ件

内田外相閣下波澄瀛海義文教之昌明日耀扶桑喜光華之燦爛
恭維

敦槃續慙

樽俎助隆遥企

芝暉無任佩仰方今環球進化日異月新

貴國唇齒相依情誼尤篤欲增輝於東亞須借鏡於鄰邦茲特派朱
念祖陳延齡銜命赴

貴國考察教育並飭兼弁接洽退還庚子賠款事宜敬懇

俯賜閱垂詳加指導俾博採改良之真諦增進互助之精神引領

宏謨曷勝企禱

海天在望不尽依依專肅順頌

助祺諸惟

荃照

弟彭允彝啓 三月十四日

(右和訳文)

以書翰啓上仕候陳者貴國文教ノ燦爛タルハ羨望ニ堪ヘス且

那トシテハ有難味ヲ感スルコト甚タ薄キ次第ニシテ斯ル場合ニハ寧ロ有志者ノ義捐金ヲ以テ之ヲ行ハルルコト至当ト思考セラル学生ノ養成ニ関シテモ米國ノ如キハ小学児童ヨリ之ヲ米國式ニ養成シ初等、中等、高等ノ順序ヲ追ヒ全然米國本位ノ学生出来上ルコトトナル次第ニシテ右ハ支那人ノ一般ニ喜ハサル所ナルカ米國以外ニ英國、日本等モ夫々同様ノ方針ニテ各自國本位ノ支那学生ヲ養成サルルカ如キハ寧ロ支那側ノ甚シク迷惑トスル所ナリ学生ノ養成ハ斯クノ如キ方法ニ依ラス中学卒業以上ノ者ニ対シ更ニ高等ノ學問ヲ修得セシムルノ方針ヲ取ラルルコト然ル可ク飽迄支那本位ノ学生ヲ養成スルノ方針ニ出ツルコト絶対ニ必要ナリ

尚終リニ仄聞スル所ニ依レハ今般帝國政府ニ於テハ対支文化事業調査委員會ヲ設置セラルル方針ノ由ナルカ右委員中ニハ支那人ヲ半数位加ヘラルルコトヲ希望ス現ニ米國ノ如キハ其仕組トナリ居ル次第ナリ云々

右ニ対シ内田大臣ハ之ヲ参考トシテ聞キ置ク可キ旨ヲ答ヘラレタリ

(別紙)

ツ閣下ノ御盛勲ハ佩仰ニ任フルナキ処ニ有之候維フニ方今世界ノ文物ハ日ニ月ニ進ミ貴國ト弊國ハ唇齒相依ルノ情誼素ヨリ篤ク輝ヲ東方ニ増サント欲セハ鑑ヲ鄰邦貴國ニ借ラサル可カラスト存セラレ茲ニ朱念祖、陳延齡ヲ特派シ貴國ノ教育状況ヲ考察シ兼ネテ団匪賠償金支払ノ件ニ関シ御打合せ致サスル事ト相成候ニ付テハ何卒御指導ノ上博ク改良ノ真諦ヲ採ルノ便宜ヲ御取計リ且ツ互助ノ精神ヲ増進致度切望ニ不堪御領承被下ハ幸甚ニ有之候

三月十四日

彭 允 彝

内田外相閣下

四七一 四月二十七日

井上大阪府知事ヨリ
内田外務大臣他宛

对中国文化事業問題特使朱念祖ノ来阪ニ付報

告ノ件

外秘第二八四八号

(四月三十日接受)

大正十二年四月二十七日

大阪府知事 井上孝哉

内務大臣 水野鍊太郎殿
外務大臣伯爵 内田 康哉殿
文部大臣 鎌田 栄吉殿
指定 庁府県長官殿

对支文化事業問題特使旅行ニ関スル件

支那特使日本教育考察事宜

朱 念 祖

对支文化事業ニ対スル内命ヲ帶ヒ支那側ノ希望ヲ齎シ来朝セル右朱念祖ハ東方通信社水野梅曉及京大留学生熊恢ヲ伴ヒ昨二十三日午後零時五十九分大阪駅着列車ニテ京都ヨリ来阪大阪朝日同毎日両社ヲ訪問シ目下大阪朝日新聞社ニ於テ開催中ノ芸術写真展覽会其他新聞印刷状況等縦覧ノ上午後六時ヨリ北浜灘万ニ於ケル前記両新聞社主催ノ歡迎会ニ臨ミ席上朱ハ

「文化事業ハ国境ヲ超越セルモノニシテ日本ノ本年ヨリ行ハムトスル对支文化事業ノ如キ東亞文化ノ振興將タ世界人類ノ為慶賀ニ堪ヘサル所ニシテ東洋ノ二国先ツ相共ニ親睦ヲ敦クシ其文化ヲ進メサル可カラス而シテ支那側ノ当面ノ希望トシテハ

1 文化事業ノ種類選定ニ就テハ兩國政府当局以外民間ヨリ選出シタル日支同数ノ委員ニ一任スルコト
2 永久の且ツ普遍的ノ性質ヲ有スル事業ヲ択フコト
3 差当リ図書館並ニ東洋文化研究所ヲ設立スルコト

等希望スル旨流暢ナル日本語ヲ以テ述ヘ歎談ノ後同午後九時十四分大阪駅発列車ニテ京都ニ向ヒタルカ同人ハ二十五日京都在学支那留学生歡迎会ニ臨ミ同夜上京スル旨ヲ語レリ

右及申（通）報候也

四七二 六月十三日

内田外務大臣ヨリ
在中国吉田臨時代理公使宛（電報）

教育視察員朱念祖陳延齡歸国ノ件

付記 四月二十日付朱念祖、陳延齡復命書

第三八五号

朱念祖及陳延齡ハ教育視察ヲ為シ並ニ团匪賠償金ノ使用方法ニ関シ各方面ト意見ノ交換ヲ為シ居タルカ結局曩ニ本月八日附文化機密第七六号往信ヲ以テ申進シタル通り支那公使館ヲ介シテ当省ニ申出來リ之ニ対スル当省ノ回答ヲ得テ

(四)俸給及ヒ事務費十一万円

(四)予備金一万円

朱念祖等該法案ハ表面文化事業ニ用フルト称スト雖其ノ内容ハ甚タ相異ナレルヲ知ル依テ日本駐在支那公使館員ト協議シ并ニ留日学界多数ノ意見ヲ徵求シ三種ノ主張ヲ決定ス
(一)兩國ハ同数ノ委員ヲ選ヒ賠償金ノ管理使用方法ヲ協議スヘキコトヲ希望ス

(二)大規模ノ図書館博物館及學術研究所ヲ設立シ竝ニ日本留学生ニ対スル補助ヲ希望ス

(三)山東学校病院及同文書院ノ補助及ヒ救恤費ニ対スル計画ニ反対ス

方法ハ日支兩國文ノ意見書ヲ印刷シテ宣伝スルト同時ニ三月二十四日前駐支公使伊集院氏ヲ訪ヒ、二十九日外務省亜細亞局長芳沢氏ヲ訪ヒ、四月三日午前実業家洪沢子爵午後内田外務大臣及田中次官ヲ訪ヒ、九日午前後藤子爵（前ニ外務大臣タリシトキ正式公文ヲ以テ日本駐在章支那公使ニ対シ適當ノ時期ニ於テ团匪事件賠償金請求權ノ拋棄ヲ声明セルモノ）午後加藤總理ヲ訪ヒ、十日午後二時鎌田文部大臣ヲ訪ヒ三時政友会本部ニ於テ議員数十名ト談話シ、十二

大ニ満足シ十日当地ヲ出発シ上海經由帰燕ノ途ニ着キタリ尚陳延齡ハ留学生ノ学資補給ノ件ニ関シ政府ト打合ヲ了シ更ニ一ヶ月以内ニ当地ニ归来スル趣ナリ御含迄
右上海ニ転電アリタシ

編註 同信見当ラズ

(付記)

四月二十日付朱念祖、陳延齡復命書（訳文）

朱念祖及陳延齡ヨリ外交教育総長ニ上ルノ書

中華民國十二年四月二十日

朱念祖、陳延齡前ニ令ヲ奉シテ日本教育視察ヲ兼賠償金返還金ノ事宜ヲ協議セン為相前後シテ日本ニ渡来ス教育総長ノ意旨ヲ稟承シテ該返還金ノ過半ハ之レヲ教育方面ニ用フヘキヲ主張セントセリ然ルニ到着ノ後始メテ政府提出ノ对支文化事業特別會計法案ハ已ニ議會ヲ通過セルヲ知ル其ノ取扱フヘキ細目左ノ如シ

(一)留学生補助費四十一万円

(二)山東学校及病院補助費五十四万円

(三)講演及視察費十一万円

(四)救恤費三十万円

日帝国大学ニ古在総長ヲ訪ヒ、十四日憲政会本部ニ於テ議員數十名ト談話シ、十五日近衛公爵細川侯爵藤原男爵ノ三氏ヨリ招カレテ貴族院議員數十名ト談話シ、十六日午前柏谷衆議院議長ヲ訪ヒ正午内田大臣ノ外務省官舎ニ於ケル招待アリ田中次官芳沢局長小村細川両侯爵列席ス午後朱念祖等筵ヲ設ケテ東京各大新聞記者數十名ヲ招待シテ均ク上記ノ主張ヲ以テ切実ニ陳述ス各方面賛成者甚タ多キモ亦考慮ヲ要スヘシトナスモアリ尚昨日新聞所載ノ対支文化事務局官制ヲ見ルニ該事務局ニ局長一人ヲ置キ亜細亜局長兼任ス事務官四人属官八人諮問委員会委員三十人ヲ置ク皆日本人ヲ以テ任シ朱念祖等ノ主張ニ対シ各項一ツモ容レラルルナク留日学界ハ甚タ憤慨ヲナセリ日本外務省ハ本年度毎月二万五千円ヲ以テ留学補助費トナシ已ニ支那駐在日本公使ニ電知セリト各留学生ハ受領ノ承諾ヲ願ハサルモノ多シ

伏シテ査スルニ米仏兩國カ団匪事件賠償金ヲ支那ニ返還スルトキハ事前ニ於テ支那ト協商シ又倫敦新聞ハ英國ノ団匪賠償金返還金ニ対シテモ亦兩國委員会ヲ組織スヘキコトヲ主張セリ今回日本政府ノ制定セル官制ハ単ニ一方的意見ヲ基礎トシ其ノ資金ノ用途モ支那国民ノ希望ト大ニ背馳スル

四七三 十二月十一日 (着) 在奉天船津總領事ヨリ
伊集院外務大臣宛 (電報)

朱念祖留学生慰問ノ為十日奉天發渡日ノ件

第二七四号

(編註)
往電第二六九号ニ関シ

日本留学生慰問ノ為王正廷一行ト共ニ渡日スル筈ナリシ朱念祖十日午後十時半当地発朝鮮經由東上ス

編註 在奉天船津總領事發第二六九号電報見当ラズ

四七四 十二月十一日 (発) 在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛 (電報)

留学生慰問並ビニ对中国文化事業關係事項ノ

為朱念祖訪日ニ付便宜供与方黃教育總長ヨリ

願出ノ件

付記 十二月三日付黃教育總長ヨリ伊集院外務大臣公文

函字第三二七号

朱念祖ヲ留日学生慰問ノ為特派並ビニ団匪賠償金問題ニ関シ協議進行セシメタキ件

第一一四二号

八 对中国文化事業關係 四七三 四七四

モノアリ念祖等カ極力主張セル点ハ僅カニ十七日ノ閣議ニ於テ參考トシテ留メ置クノ一語アリタルノミ当然速カニ力爭スヘキモノナレトモ本年度ノ予算ハ已ニ日本ノ議會ニ於テ議決セラレタルヲ以テ恐ラクハ變更ノ余地ナカルヘシ目下再ヒ各方面ニ対シテ疎通中ニシテ速カニ兩國各同数ノ委員ヲ推シテ適當ナル用途ヲ討論シ以テ来年度ノ賠償金支配ノ根拠タラシムルコトヲ依然主張シツツアリ若シ日本カ再ヒ此ノ主張ヲ容レスンハ本年度ノ留学生補助費モ輕々シク受取ルハ都合悪キニ似タリ茲ニ特ニ団匪賠償金返還問題ニ関スル各新聞記事及ヒ朱念祖等カ日本ニ於テ發表セル意見書ヲ提出シ以テ謹テ總長ノ御高覽ヲ願ヒ御詮議ノ上念祖等ノ計画セル兩國ヨリ各同数ノ委員ヲ推シテ協議スル事及ヒ賠償金返還金ノ分配弁法ニ就キ速ニ駐支日本公使ニ対シ篤ト御交渉アラハ兩國文化ノ前途ニ裨益スル所実ニ少ナカラス何卒御裁決ヲ乞フ尚崇文門稅關收入ヲ以テ留学生費トナシ月二万五千元支出ノ件ハ已ニ成案トナリ居レリ故ニ欠費生省公費生ノ全部ハ此ノ收入金ニ依リテ維持スルヲ得何卒崇文門監督ニ対シ御協商ヲ乞フ此ニ併テ謹テ白ス

黃教育總長十日來訪ノ際朱念祖ハ八日北京發日本ニ赴キタルカ其ノ用務ハ留日学生慰問並對支文化事業關係ノ事項ナルニ付到着ノ上ハ万事便宜供与方政府ニ伝達アリタキ旨申し居リタルニ付可然御取計アリタシ

(付記)

十二月三日付黃教育總長ヨリ伊集院外務大臣宛公文

朱念祖ヲ留日学生慰問ノ為特派並ビニ団匪賠償金問題ニ関シ協議進行セシメタキ件

教育部公函十二年函字第三二七号

逕啓者查庚子賠款一部分補助敝國在貴國留学生學費其全部分則均充作敝國內文化事業助長之用一案本部前經派專員朱念祖陳延齡前往貴國考察教育並接洽該項事宜嗣於本年五月十九日由敝國代理公使張元節函達

貴省聲明敝國對於該件準備進行情形列舉甲乙兩項弁法旋奉貴省六月五日函復內開關於留學生學資分配方法將該協定另紙開列擬依擬該法每月交付關於設置諮問機關如能由貴國代表得悉貴國意向則於本件事業上進行裨益非鮮等因具微

貴省敦睦邦交提倡文化之盛意甚深感佩茲本部委派正任江西教育庁長朱念祖前往貴國為本部慰問留學生專員並就近前赴

貴省接洽前項庚子賠款事件相応函達尚希
查照交換意見協商進行為荷本總長對於
貴大臣特表敬意此致
大日本帝國外務大臣閣下

黃 郭

中華民國十二年十二月三日

編註 右公文ハ十二月十七日朱念祖持參セルモノナラン、尚略々
同文ヲ出淵亜細亜局長兼對支文化事務局長ニモ持參セリ
(右和訳文)

教育部公函十二年函字第三二七号

以書翰啓上致候陳者團匪賠償金ノ一部分ヲ以テ貴國ニ在ル
敝國留学生ノ學費ヲ補助シ其全部ヲ挙ケテ敝國国内ニ於ケ
ル文化事業助長ノ為ニ使用セラルル件ニ関シテハ本部ハ曩
ニ朱念祖陳延齡ヲ特派員トシテ貴國ニ派遣シ教育狀況ヲ視
察セシメ且ツ本件ニ関シ協議セシメ其後本年五月十九日敝
國代理公使張元節ヨリ貴省ニ對シ書面ヲ以テ本件ニ関スル
敝國ノ準備經過ノ情況ヲ声明シ甲乙二項ノ弁法ヲ列挙致候
処之ニ對シ貴省ヨリ六月五日附ヲ以テ留學生學資ノ支給方
法ニ関シテハ該協定ニ基キ毎月交附スルコトトシ諮問機關
ノ設置ニ関シテハ若シ敝國代表ヨリ敝國ノ意向ヲ知悉スル

文部大臣 岡野敬次郎殿

指定庁府 県長官殿

知名支那人來往ニ関スル件

支那教育部特派員

朱 念 祖

右者本月十三日午後三時三十五分京都駅着列車ニテ大阪ヨ
リ入洛市内上京区吉田町ニ居住中ノ留學生資耀華方ニ投宿
シ今春對支文化事業問題ニ付訪問セシコトアリシ關係上荒
木京大總長ヲ訪問シ教育ニ関スル談話ヲ為シ且今回渡來ノ
用務ニ付テ退去セシガ翌十四日午前九時五十分京都駅発列
車ニテ東京ニ向ケ出發セリ
右及申(通) 報候也

四七六 十二月二十九日 日中当局非公式協議會議事

对中国文化事業ニ関スル第一回日中当局非公

式協議會議事録

(大正十二年十二月二十九日外務省ニ於テ開催)

列席者

八 对中国文化事業關係 四七六

コトヲ得ハ本件事業ノ遂行上裨益スル所尠カラサル旨御回
答ニ接シ貴省カ國交ヲ重シ文化ヲ提倡セラルル御厚誼ニ
對シ深甚ナル感謝ノ意ヲ表シ候茲ニ本部ハ現任江西教育庁
長朱念祖ヲ本部ノ留學生慰問特派員トシテ貴國ニ派遣シ其
序ヲ以テ貴省ニ出頭前頭團匪賠償金問題ニ関シ協議セシメ
意見ヲ交換シ協商進行スルコトト致度此段得貴意旁本總長
ハ茲ニ重ネテ貴大臣ニ對シ敬意ヲ表シ候 敬具
中華民國十二年十二月三日

黃 郭

大日本帝國外務大臣閣下

四七五 十二月十八日

池松京都府知事ヨリ
伊集院外務大臣他宛

朱念祖ノ京都ニ於ケル行動ニ付申報ノ件

特高第二四七二号

(十二月二十四日接受)

大正十二年十二月十八日

京都府知事 池松 時和

内務大臣 後藤 新平殿

外務大臣 伊集院彦吉殿

(日本側) 出淵對支文化事務局長、岡部事務官、伊藤文

部書記官、朝岡事務官

(支那側) 汪公使、朱教育部特派員、陳學務委員、張參

事官、錢秘書官

午前十時半開會

汪公使(以下公使ト称ス)對支文化事業ニツキテハ曩ニ朱
念祖氏ヨリ申入レタル通支那全國民ノ希望トシテ事業ノ
計画及遂行ニツキ支那國民ノ意思カ十分ニ尊重セラレン
コトヲ望ム次第ニシテ(此時公使ハ支那側ノ希望条項ヲ
列記セル別紙覚書ヲ提出シ)先ツ團匪賠償金ニ基ク收入
ニツキテハ日本政府ニ於テ對支文化事業予算編成ニ當リ
次ノ各事項ヲ編入アリタシ

一、図書館ヲ北京ニ設立スルタメ開設費トシテ来年度予
算二百萬圓ヲ又經常費トシテ毎年四拾萬圓ヲ計上スル
コト

二、學術研究所ヲ上海ニ設クルタメ開設費トシテ五拾萬
圓經常費トシテ毎年參拾萬圓ヲ計上スルコト

三、大正十四年度予算ニ博物館設置費ヲ計上スルコト
以上ノ諸施設ヲナスニツキテハ董事會ヲ設クヘク董事ノ

数ハ清華学校ノ先例ニ準シ之ヲ定ムルコト

四、来年度予算ニ留学生補助ノタメ計上スル費額ハ六拾万円ヲ下ラサルコト

右ノ外残余金ノ使途ニツキテハ支那側ノ同意ヲ求ムルコト

次ニ団匪賠償金以外ノ収入ニツキテハ既ニ日本政府ニ於テ実行シ居ル山東省ニ於ケル学校病院ニ対スル補助ノ外次ノ二項ニツキ支出ヲナスヲ望ム

一、山東省ニ医科大学ヲ設立シ之ニ医院ヲ附属セシムルコト

二、賑災費

尚山東關係ノ資金ハ対支文化事業特別会計中ニ之ヲ繰入レスシテ特ニ独立ノ會計ト為サレンコトヲ希望ス

右各項ニツキ日本政府ノ御同意ヲ得タル上留学生問題ヲ協議シ度シ

出淵対支文化事務局長（以下局長ト称ス）唯今公使ノ開陳セラレタルモノニハ自分トシテ即時御同意出来得ルモノアルト共ニ又即時ニ御同意スルコト困難ナルモノナキニ非ス先ツ特別会計ノ性質ニツキ一言センニ此点ニツキテ

華学校ノ先例云々ノ御希望ハ小問題ニシテ営利事業ニ非サル文化事業ハ多数決ヲ以テ定メス満場一致ニテ決定実行スト云フ気分ナラサルヘカラサルモノナルカ故ニ評議員ノ数ノ如キハ後日ニ譲リテ可ナルヘク公平ノ見地ヨリセハ双方ニテ行フ仕事故両国半数宛トナスコト或ハ適當ナルヘシ

次テ総テノ問題ハ一々支那側ノ同意ヲ要スヘシトノコトハ程度問題ニシテ要ハ同意トイフカ如キ角立チタルコトヲ云ハス万事相談ノ上行フト云フ方針ヲ可トスヘシ

山東省ニ医科大学ヲ設立シ之ニ附属ノ病院ヲ附設スルコトハ誠ニ結構ナレトモ其費用ハ所謂山東關係ノ資源ヲ以テ支出スヘシトノ議論ハ首肯シ難シ濟南病院ハ現在其設備完全ニシテ患者ノ八割以上ハ支那人ナルヲ以テ其建設カ日本ノ山東占領時代ニアリタリト雖必スシモ山東關係ノ資源ヲ以テ経営スヘキモノトモ限ラス事業ノ性質上主トシテ支那人ニ対スル文化事業タルコト明白ナルモノナレハ団匪事件賠償金關係ノ資金中ヨリ其経費ヲ支出スルモ差支ナキモノナリ況ンヤ新ニ大学ヲ設立センカ学生ハ悉ク支那人ナルニ於テヲヤ殊ニ又所謂山東關係ノ収入ハ

ハ支那側ニ多少ノ誤解アル様思考スル次第ナルカ当初ハ外務省トシテモ山東關係ノ資金ト団匪賠償金關係ノ資金トヲ別個ノ特別会計トナサントセシカ我會計制度上多数ノ特別会計ヲ設置スルヲ許ササルタメ結局一併セル次第ナリ次ニ金額ニツキテハ団匪事件賠償金關係ノモノ二百六十六万円山東關係ノモノ百十万円合計三百七拾万円ノ収入ナルカ本事業ヲ恒久的ノモノトナスタメニハ其一部ヲ積立テサルヘカラス其結果目下ノ処年々ノ支出総額ハ二百五十万円ヲ限度トシ此中団匪賠償金關係ノモノハ専ラ支那人ノタメノ事業ニ用ヒ山東關係ノモノハ山東省ニ於ケル学校病院ノ外同文会同仁会等ノ如キ現ニ日本団体ノ支那ニ於テ経営スル文化事業ノタメ使用セントスル考ナリ尤モ之ハ自分限りノ考ニシテ議會モアルコトナレハ右ハ終局的ノ日本政府ノ意向トハ申上ケ難シ

次ニ吾人トシテ支那有識階級ノ間ニ一致セル意見ニツキテハ勿論十分尊重スル考ナリ例ヘハ図書館學術研究所ニ日支両国人ヲ評議員トシテ入ルルコト其會長ヲ支那人トナスコトノ如キ又図書館等ノ名称ヲ支那側ノ希望セラルル通りニ定ムルコトニハ異議ナシ但評議員ノ数ニツキ清

其額大ナラサルノミナラス其現実収入モ不確実ノモノナレハ此点ニツキテハ十分ノ了解ヲ得置カサルヘカラス尚賑災費ヲ所謂山東關係資金中ヨリ支出スヘシトノ議論モ了解ニ苦シム所ナリ吾人ハ此費目ヲ設ケタル為支那二年天災地変ノ發生スヘキヲ予想シ又ハ之ヲ祈ルカ如キ感ヲ懷カルルハ甚タ不本意ニシテ如斯天災地変ニシテ勃發センカ吾々日本人ハ自己ノ懷中ヨリ相当ノ齾出ヲナシ隣国ノ難ヲ救フヘキハ多言ヲ要セサル所ナリ唯万一ノ場合急ニ応シ仮令少額ナリトモ即時支出シ得ルノ途ヲ図リ置カントノ趣旨ヨリ之ヲ設ケタルモノナルヲ以テ之カ資源ヲ山東關係ノモノニ限ラントスルハ其意ヲ得サル次第ナリ図書館ニ關スル御意見ハ全然同感ニシテ現ニ日本側ニ於テモ北京ニ一大図書館ヲ建設セントノ企劃ヲ有シ居リ以テ東洋文化ノ精華ヲ世界ニ宣揚センコトヲ期シツツアル次第ナリ

次ニ學術研究所ニツキテハ日本側トシテハ大図書館ニ精神科学ノ研究ヲナスヘキ研究機關ヲ附設スルト共ニ之トハ別ニ上海ニ研究所ヲ建設シ藥草其他支那ノ天產物ノ研究ノ如キ自然科学ノ研究機關ヲ設立センコトヲ計畫シ居

ル次第ナリ

又博物館ノ設置モ結構ナレハ其種類ニツキテハ後日御相談ヲナスヘシ

以上ノ如ク大体貴方ノ御提議ニ対シテハ我々トシテ御同意出来得ルコトナレハ何レ御提出ノ覚書ニツキテハ研究ノ結果御回答ナスヘク依テ之ヨリ留学生問題ニ移ルコト便宜ナラン

公使 図書館ノ件ニツキ御計画ヲ拝聴シ感謝ノ至リニ堪ヘス費額及評議員数ハ後日追テ協議スヘク先刻申述ヘタル員数ハ単ニ御参考マテ申上ケタル次第ナレハ場合ニ依リテハ同数ニテモ可ナラン

學術研究所ニツキテハ北京ハ単ニ図書館ノミナラス之ニ學術研究所ヲ附設スルコトトシ上海ノ研究所ハ自然科学ヲ研究スル機関トシ以テ世界ニ秀テタル哲学及美術等ヲ天下ニ紹介スルト共ニ近代科学ノ研究ヲ熾ニシテ東洋ニ於ケル文化ヲ益々進ムルコトトシタシ

局長 學術研究所ノ範圍ニツキテハ全然同意見ナリ唯北京図書館ニ精神科学ノ研究所ヲ附置セントセルハ結局便宜問題ナリ此種研究ニハ自然図書館ヲ利用スヘキ必要大ナ

公使 山東ニ於ケル病院経営及賑災費ノ如キハ社会事業ナレハ所謂山東關係ノ資金ヲ以テ支弁スヘク団匪事件賠償金關係ノ資源ハ純然タル文化事業ノミニ用フルコトトシタリ医科大学ヲ山東ニ建設スルノ件ハ所謂山東關係ノ収入ニシテ不確実ナリトセハ提議ヲ取消スモ可ナリ

局長 要スルニ濟南ニ医学校ヲ設クル場合ニ其費用ヲ団匪事件賠償金中ヨリ支出スルニ不同意ナリト云ハルル次第ナリヤ

公使 否将来資金ニ余裕アラハ之ヲナスモ可ナリ
局長 濟南ニ医学校ヲ設立スル場合ニハ其校長ニ支那人ヲ置キ評議員ヲ日支両国人ニテ構成スルコト然ルヘク自分一個ノ考トシテハ支那人ニシテ適當ノ人物サヘアレハ濟南病院ノ院長ノミナラス支那人ニ於ケル他ノ病院ノ院長及医員スラ支那人ヲ以テ之ニ充ツルモ差支ナキカト迄考フル次第ナリ

又賑災費ハ事面倒ナレハ罷ムルモ可ナリ

公使 否名称ノ問題ニシテ例ヘハ賑災其他慈善ニ関スル費用又ハ他ニ概括の名称ヲ用フル場合ニハ団匪事件賠償金中ヨリ支出スルモ可ナリ唯現在ノ名称トセハ之レ社会事

ルヘキニ依リ之ヲ同一ノ場所ニ設クルコト適當ナリト思惟ス

公使 御説明ニヨリ了解シ異議ナシ

局長 元来本問題ハ専門学者ノ意見ヲ聞クニアラスンハ具休案ハ出来サルモノナリ而シテ日本学者ノ意見ノミナラス支那学者ノ意見ヲモ徵スルノ要アルコト勿論ナリ

公使 誠ニ其通ナリ唯北京ノ研究所ハ図書館ノ附屬物トセス独立別個ノモノトナシタシ

局長 夫ニテ差支ナシ

岡部事務官 北京ニ於ケル研究所ハ狹義ノ精神科学研究ノミヲ目的トセス美術、建築ノ如キモノヲモ含ム広キ意味ノ精神科学ノ研究ヲナスコトトシ度シ

公使 右ノ通ニテ異議ナシ

局長 現ニ我國ニハ文化事業資金ヲ出シテ支那ノ古代建築ノ保存ヲ図ルヘシトノ説ヲナスモノアレトモ今日支那ノ国情ニテハ内地ニ巨資ヲ投スルハ危険ナルカ故ニ寧ロ实地ニツキ研究シ之ヲ出版シテ天下ニ紹介スル方適當ト思考スルニ依リ此研究ノ如キモ北京研究所ニ於テ之ヲナスヘシ

業ニシテ文化事業トハ稍々縁遠キ感アリ

朱氏 単ニ慈善費ト云フカ可ナラン

局長 公使モ自分ト同意見ニテ賑災費ハ文化事業ニ非ス社会事業ナリトセラルルニ付寧ロ廃止スルコト可ナラン

公使 大賛成

局長 然ラハ予算ノ關係上已ムヲ得サル事情モアルヘキニヨリ来年度タケハ之ヲ其儘計上シ置クコトトシ其後ハ之ヲ廃止スルコトトセン

公使及朱氏 至極結構ナリ

公使 研究所ニ於ケル研究者ハ支那人ヲ主トシ日本人モ指導者トシテ之ニ加ハリ又必要アラハ外国人ニテモ可ナルコトトシタシ

局長 至極結構此種ノコトニ国境ナシ

公使 以上述ヘタル所ハ自分一個ノ意見ニ非ス支那有識者間ニ一致セル意見ナリ

局長 図書館ヲ北京ニ建ツル場合適當ノ土地アリヤ例ヘハ哈達門附近ニ相當ノ地域アリト思考スルカ如何

公使及朱氏 アリ局長ノ云ハル所ノ如キ一候補地ナリ又中央公園内図書館所在地ノ如キモ候補地トシテ可ナラン

局長 然ラハ土地買入費金額ハ何程ナルヘキヤ
公使 官地ヲ利用スヘキニヨリ無償ニテ提供シ得ヘキコトヲ保証ス

局長 一個ノ私見トシテ御尋ネスル次第ナルカ我民間ニハ目下経営難ニ陥レル北京ハ大学ニ対シ対支文化事業特別會計ヨリ補助ヲナスヘシトノ意見ヲ懷ク者アルカ此等大学ハ支那政府ノ経営スルモノナルカ故ニ之ニ文化事業費ヲ出スカ如キハ穩当ナラスト思考スルカ如何
公使 右ハ多分一時又ハ特殊ノ事項ニツキ寄附ヲ求メントスルノ意ナルヘシ文化事業資金ヨリノ補助ニテ全部ノ維持ヲナサンコトヲ希望スル次第第二ハ非サルヘシ此種学校ハ支那全国ニ亘リ他ニモ沢山アリ

局長 然ラハ公使ハ此種補助ニハ不賛成ナリヤ
公使 然リ特定ノ目的ヲ有スル寄附ナレハ異議ナキモ然ラサル限り不可ナリ

局長 例ヘハ文化事務局ノ設立スル北京學術研究所ニテ研究ノ一部ヲ此等大学ニ依頼スル如キハ勿論可ナルヘシハ大学ノ經費ハ毎月三十万円ヲ要ストノコト故一年ニハ文化事業資金全部ヲ出シテモ尚足ラサルヘク実行到底不可

ヘキヤ

公使 總數廿名トシ日支同數トシ外ニ會長トシテ支那人ヲ置クコト可ナラン

局長 余モ亦賛同ス次ニ岡部事務官ヲシテ資金ノ分界ニツキ參考迄ニ吾人ノ意見ヲ非公式ニ述ヘシムヘシ

岡部事務官 匪賠償金ヨリノ年収ハ二百六十六万円余山東關係ノ收入ハ鐵道ノ分八十七万円公有財産ノ分二十一万六千円計百八万六千円合計約三百七十余万円ニシテ内現行法ノ下ニ支出シ得ヘキ限度ハ二百五十万円ナルヲ以テ其剩余ハ積立テテ将来ノ基金ニ充ツル訳ナリ而シテ前者ハ利子四分後者ハ利子六分ナレハ之ヲモ考慮ニ加ヘ此二百五十万円ヲ按分スレハ前者ヨリノ收入ニ基キ支出シ得ル限度ハ百七十二万円後者ヨリスルモノ七十八万円トナルナリ而シテ前者ヲ以テ行ハントスル主タル事業ハ圖書館研究所ノ開設及留學生ニ対スル學費補助等ニシテ後者ニ依ルモノハ山東ニ於ケル学校病院及同文會同仁會等ノ補助是ナリ

局長 右ハ吾人ノ私案ニシテ吾人トシテハ尚此案ニツキ調査會及議會ノ同意ヲ求メサルヘカラサルコトハ御承知アリ

能ノ話ナリ

公使 然リ

朱氏 自分モ公使ト同意見ナレハコソ今春以來度々文化事業ニ関シ外務省其他ノ方々ト面談セル際ニモ此種大学補助ノコトハ一言モ申出テサリシ次第ナリ

局長 更ニ私談トシテ伺ヒ度キハ南方側ヘハ広東ニ何等カノ施設ヲナスノ要ナキヤ

公使 勿論之ヲセラルルコトニ異議ナシ但差当リハ上海ニ研究所ヲ設立サルレハ広東方面ノ人士モ之ヲ利用スルヲ得ヘシ政治界ニハ南北ノ分立アレトモ學界ニハ牆壁ナシ局長 尤モ広東方面ニテモ地方的ニ種々意見モアルヘキニ依リ此意見出テタル節ハ改メテ又御意見ヲ伺フヘシ

公使 文化事業實施ノ順序ハ第一北京第二上海第三濟南第四広東トナシ度シ

局長 極メテ同感ナリ

朱氏 北京ト上海トハ同時ナレハ尚可ナラン自分先般上海ニ赴キタル際前教育總長黃炎培ノ如キモ上海ニ於ケル施設ヲ切望シ居タリ

局長 施設執行ノ任ニ当ル評議員ノ總數ハ何人位カ可ナル

リ度シ

公使 自分ノ方トシテモ此処ニテ御相談ナスモ議會カ何ト云フカ計リ難シ

局長 何レノ途双方共精々努力シテ議會ヲシテ吾人ノ案ヲ承認セシムル様図ルヘシ

次ニ留學生問題ニ移ラン此問題ハ見方ニヨリテハ重大問題ナレハ今日ハ公使ニ於テ時間切迫ノタメ討議ノ余裕ナシトセハ他ノ機會ニ於テ出来得ル限り速ニ之カ協議ヲ開キ度シ自分カ亜細亞局長ニナリテ以來貴國公使館保護ト云フ不幸ナル問題ヲ處理シ来レルカ公使カ新任セラレタルコト故此際速ニ本問題ノ解決セラレンコトヲ希望ス
公使 問題カ複雑ナルニ依リ先ツ學生ノ意見ヲ聴取シタル上ニテ協議スルコトトシタシ(双方打合ノ結果大体方針ニツキ三十一日午前十時半再ヒ協議會ヲ開キ其上ニテ更ニ来ル一月七日第三回ヲ開催スルコトトシタリ)

局長 本問題ハ来年度ト来年度以後トノ二ツニ分チテ考フヘキモノナリ本年度ニツキテハ曩ニ当方ヨリ差出シタル提案ニ対シ今日迄何等ノ御回答ナク最近突然教育總長ヨリ來信アリタリ又来年度ニツキテハ無方針ニテ多數ノ學

生ヲ在留セシムルコトハ兩國ノタメ不可ナルノミナラス之ハ或意味ニ於テハ公使ノ所謂社会事業ナレハ来年度ハ優秀者二百八十名ヲ限度トシテ選抜シ之ニ十分ノ補助ヲナスコトトナシ度尤右学生ノ選抜ニツキテハ貴方ト御相談致シ度シ

公使 貴案ハ結構ナレトモ急激ニ行ヘハ問題ハ却テ重大トナルヘシ

局長 団匪事件賠償金ヨリノ收入ハ性質上学生ノタメニ或程度以上支出スヘキモノニ非ス之ヲナセハ他ノ真ノ文化事業ヲナスノ余裕減少スヘシ要スルニ三十一日迄ニ具体的ノ大体方針ニ依リ御開陳アリタシ

朱氏 只今局長ハ教育総長ヨリ突然來信云々ト云ハレタルカ自分ハ一般文化事業ノタメ派遣サレタルモノニテ学生問題ハ専ラ公使及学務員ノ処理スヘキコトナリ教育総長ノ書面ニ学生問題ヲ記シアルハ単ニ貴方ノ來翰ニ対スル返書ノ形式トシテ冒頭ニ來翰ノ内容ヲ繰返シタルモノナリ

公使 協定案ニツキテハ別ニ支那政府トシテ返事スルトコロアルヘシ

(別紙)

十二月二十九日協議會ニ汪公使提出ノ中国側覚書

大正十二年十二月二十九日協議會ノ席上汪公使ヨリ提出

貴国政府ヲ發展東亞文化並鞏固中日国交起見於四十六議會議決以庚子賠款全部助長敝国内文化事業及補助留日学生費用盛意至深銘感惟策画須容納敝国人士意見庶進行益臻便利茲將敝国方面所希望各端条列於左

(甲) 希望列入对华文化事業預算各事項

(一) 於敝国内適宜地点設立圖書館其建築開弁費至少需一百萬元常年經費至少需每年四十萬元

(二) 於敝国内適宜地点設立學術研究所其建築開弁費至少需五十萬元常年經費至少需每年三十萬元

(三) 於大正十四年度預算內加入設立博物館經費
關於圖書館博物館學術研究所之内容由董事會議決之董事會由中日兩國人士組織其人数比例照清華學校先例弁理

(四) 大正十三年度留學補助費希望全年撥付六十萬

除前列四項外所余款項希望先徵求敝国同意始行支配

(乙) 希望另列預算各事項

局長 曩ニ公使館ニ提出セル協定案ニ対スル御回答ハ其必要ナシ何トナレハ我提案ハ本年度限りノ便法ニ関スルモノニシテ本年度ハ最早ヤ余日幾何モナキヲ以テナリ寧ロ別ニ整理弁法ヲ御協議スル方適當ナリ

公使 回答遲延ハ教育部「ストライキ」ノ結果ニシテ御説ノ通新ニ弁法ヲ協議スヘシ就テハ三十一日ニ貴方ノ具体案ヲ示サレタシ

局長 差当リ我方ニ学生ノ希望ヲ知ル由ナク從ツテ来年度ハ兎ニ角本年度ノ整理弁法ハ我方ニ於テ具体案ノ作り様ナキニ依リ先ツ貴方ヨリ示サレタシ又貴方ノ具体案ハ来年度ノ我方案ト連絡アルヘキコト勿論ナリ次ニ貴国ニ於テ官費留學生ノ制度ヲ廢止シタリトノコトナルカ真ナリヤ

公使 然リ今後ハ各国ヘ出サス

岡部事務官 各省ヨリノ給費生ハ如何

公使 中央部ヨリ各省ニ訓令シアル故今後ハ全部廢止ト解セラレタシ但現ニ在ル留學生ニ対シテハ何トカナササルヘカラサルナリ

以上(午後一時半散會)

(一) 山東學校及醫院之補助費

關於此項如能先行設立医科大学付設醫院尤所贊同

(二) 賑災費

以上兩項支出希望另立預算於膠濟鐵道及對於公有財產引渡之賠償金二千二百萬元内支配不列入对华文化事業會計法案以内

關於甲乙兩項如

貴国政府容納敝国方面意見至相當程度時即行正式与

貴国協定支配留日学生補助費弁法茲具說帖如

右藉備 參酌

(右和訳文)

汪公使提出ノ覚書訳文

貴国政府ハ東洋文化ノ發展並ニ中日国交ヲ鞏固ニスル為第四十六回帝國議會ノ議決ニヨリ団匪賠償金ノ全部ヲ拳ケテ敝国内ノ文化事業ノ助長及留日学生費用ノ補助ニ充テラルコトハ誠ニ感銘ノ至ナリ惟其ノ計画ニ就キテハ須ク敝国人士ノ意見ヲ容レラルレハ其進行益々利便トナラン茲ニ敝国方面ノ希望スル所ヲ列記スルコト左ノ如シ

(甲) 对支文化事業予算ニ編入セラルヘキ希望事項

(一) 敝国内適宜ノ地点ニ図書館ヲ設立シ其建築開設費ハ少クモ壹百万円經常費ハ少クモ毎年四拾万円ヲ要スヘシ
(二) 敝国国内ノ適宜ノ地点ニ學術研究所ヲ設立シ其建築開設費ハ少クモ五拾万円經常費ハ少クモ毎年參拾万円ヲ要スヘシ

(三) 大正十四年度予算中ニ博物館設立ノ經費ヲ加入スヘシ
図書館博物館及學術研究所ノ内容ニ関シテハ董事会ニ於テ之ヲ議決シ董事会ハ中日両国人士ヲ以テ組織シ其人数ノ割合ハ清華学校ノ先例ニ準ス

(四) 大正十三年度留学補助費ハ一ケ年ニ六拾万円ヲ支出セラレンコトヲ望ム

前述四ヶ条ヲ除キタル剰余ノ金額ハ先ツ敝国ノ同意ヲ徵シテ始メテ配布セラレンコトヲ望ム

(乙) 別項予算ニ対スル希望事項

(一) 山東学校及医院ノ補助費

此項ニ関シテハ若シ先ツ医科大学ヲ設立シ医院ヲ附設スルヲ得ハ最モ賛同スルトコロナリ

(二) 賑災費

以上ノ兩項ノ支出ハ予算ヲ別ニ立テ膠濟鉄道及公有財産

ハ直接公使館ヨリ学生ニ支給スルコトニ御異存ナキヤ否ヤノ点ナリ

局長 右ハ本年度ノミニツキ言ハルル次第ナリヤ

公使 否、本年度ノミナラス将来ニ亘リ恒久的ノ方法トシテ論スル次第ナリ尤モ若シ全然右補給金ノ支給ヲ公使館ニ一任セラルルコトニツキ不都合ノ点アリトセハ適當ノ方法ニツキ考慮セン

局長 御提議ニ応スルコトハ可能ナルモ学生カ日本ノ官吏ヨリ此補給ヲ受クルヲ希望セサレハトテ支那公使館ノ手ニテ之ヲ為スコトトセハ從來ノ經驗ニ徴シ学生ハ補給額ニツキ常ニ不足ヲ訴ヘ公使館ヲ煩ハスヘキニ依リ支那公使館ノミヲ支給ノ直接責任者ト為スハ考ヘモノナラスヤ公使 其故支給ノ方法ハ御協議ノ上確定スルコトトスヘキモ現実支給ハ公使館ノ手ニテ之ヲナシ度シ

局長 支給ヲ如何ナル経路ヲ以テナスヤハ根本問題ニ非ス自分ハ主義トシテ公使館ヨリノ支給ニ反対スルモノニ非サレトモ吾人トシテ之ヨリモ先ツ確定スルノ必要アリト認ムル点ハ如何様ニ補給ヲナスヘキヤノ点ナルヲ以テ支払ノ場所ノ問題ハ後廻トシ如何様ニ補給スヘキヤヲ御協

引渡ニ対スル賠償金貳千貳百万円中ニテ配布シ対支文化事業會計法案中ニ編入セサルコトヲ希望ス

右甲乙兩項ニ関シ若シ貴国政府ハ敝国方面ノ意見ヲ容レラルレハ相当ノ時機ニ至リ貴国ト正式ニ留日学生補助費ノ配布方法ヲ協定スヘシ

右覚書御参考ニ供ス

四七七 十二月三十一日 日中当局非公式協議會議事

对中国文化事業ニ関スル第二回日中当局非公

式協議會議事録

付記 兩次ノ協議会ニ於テ日中当局了解事項ニ関スル覚書

(大正十二年十二月三十一日外務省ニ於テ開催)

列席者 日本側及支那側共第一回同様

午前十時半開会

局長 第一回会合ニ於ケル御打合ニ基キ本日ハ留学生問題ヲ協議セン

公使 本件学費ノ補給ヲ受クヘキ学生ノ人数及金額ハ後ニ貴方ト御相談致シ度キモ先ツ伺ヒ度キコトハ本件補給金

議致シ度シ

公使 留学生ハ一般ニ本件補給金ヲ日本政府ヨリ貰フヲ欲

セス支那公使館ヨリ支給ヲ受ケ度シトノ希望ヲ有セリ

局長 然ラハ公使館ノ手ニテ支給スヘシト言フコトニ決定セサル限りハ所謂留学生問題ニツキ更ニ協議ヲナスノ余地ナシト云ハルル次第ナリヤ

公使 其通りナリ但支給方法等ヲ議スル為支那公使館ヨリ二名、外務省ヨリ一名、文部省ヨリ一名、学生代表一名ヲ出シ一ノ委員会ヲ組織スルコトトナシ度シ

局長 支給ノ方法ニ付テハ多々アルヘキモ要スルニ枝葉ノ問題ナレハ根本問題タル支給ノ内容ニツキ先ツ議スルコトトナシ度シ我方カ只今御提議ノ如キ支給方法ニ反対セサルコトハ現ニ本年度分ノ支給ニツキ曩ニ公使館ニ提出セル我提案ニ見ラルルモ明白ナル次第ナリ

兎ニ角先ツ来年三月迄ノ現実支給問題ニツキ公使ノ御意見ヲ伺ヒ度シ

公使 留学生ノ間ニ二派アリ一派ハ如何ナル形式ニヨルモ文化事業特別會計ヨリ学費補給ヲ受ケストナシ他ハ之ヲ受クルコトハ異存ナキモ唯其支給ハ直接公使館ヨリ為サ

レ度然ラサル限りハ前者同様ニ之ヲ受クルヲ希望セスト
主張セリ

局長 公使ニシテ適當ノ方法ヲ御提示アルニ於テハ三月迄
ノ処支給ヲ公使館ノ手ニテナスニ異存ナシ唯方法トシテ
宜シキヲ得サレハ種々ノ弊害生スヘシ現ニ最近ニ於ケル
支那政府ヨリ送金アリタル學費ノ分配ニツキテモ種々問
題ヲ生シタルコト故此方法ナルモノハ十分攻究ノ必要ア
ルモノナリ

公使 其故各種ノ弊害ヲ防止スルタメ委員會ヲ作ラレ度シ
ト提議セル次第ナリ

局長 委員會案可ナリ但分配ノ具体的方針ノ協議コソ先ツ
緊要ナラスヤ

公使 御尤ナリ然ラハ其具体的方針ニツキ述ヘンニ先ツ問
題ヲ十三年度ト十二年度ノ二ツニ分ツヘク而シテ先ツ十
三年度ヨリ決定シ十二年度ハ之ニ準拠シテ決定スルコト
適當ナルヘシ

局長 其通ナリ然ラハ来年度ニツキ御意見ヲ伺ヒ度シ

公使 十三年度以後一定期間ニ対シ一定金額ノ支出ヲ希望
ス換言スレハ十三年度以後一定ノ年數ノ間ハ毎年一定ノ

生ノ整理ニ非スヤ今優良學生ヲ簡拔シ之ニ十分ノ學費ヲ
補給スルトシ一人毎月何程ノ金額ヲ要ストノ御見込ナリ
ヤ

公使 今日迄支那中央及地方政府カ大学校ニ在學スル官費
學生ニ給与セル學費ヲ標準トシ一人一ヶ月七十円ヲ希望
ス而シテ団匪事件賠償金ノ支払ハ各省ノ負担スルモノナ
レハ之ニヨル學費ノ補給ヲ受クル學生數ノ割合ハ各省選
出國會議員數ニ応スルコトトシ又其給費ヲナスヘキ学校
ハ日本文部當局ト協議ノ上之ヲ決定スルコトトナシ度シ
局長 御意見ヲ尊重セン次ニ各給費學生ニ対シテハ一樣ニ
支給スヘキヤ又差等ヲ設クヘキヤ

公使 皆平等トスルコトトシ全費生半費生等ノ區別ヲ設ク
ルカ如キコトハ之ヲ避ケタシ

局長 大学以外専門学校ヲモ指定学校中ニ入ルル考ナリヤ
公使 勿論ナリ

局長 七十円ハ適當ナルヘシ然ラハ理想トシテ年々新ニ何
人ノ優良學生ヲ選定セラルル御意向ナリヤ

公使 三百五十人即約三十万円ヲ希望ス三百五十人ト云ヘ
ハ多數ノ様ナルモ卒業帰国後各省ニ分散スレハ極メテ少

金額ノ支出ヲ望ム

局長 之レモ公使館ノ手ニテ支給スルヤ否ヤト云フ問題ト
同様根本的又ハ實質的ノ問題ニアラス實質的ノ補給方法
ヨリ先ツ討議ノ題目トナスヘキモノナラスヤ

公使 金額ノ点ニツキ貴方ハ前回ノ会合ノ場合二十万円ト
云ハレ我方ハ同様其際六十万円ナル提議ヲナセルニ依リ
其間大ナル開アリ何トカシテ其中間ニテ協定スルコトト
ナシ度シ

局長 公使ハ尚金額ヲ先ニ決メタシト云ハルルヤ

公使 然リ金額ニシテ定マレハ方法ハ自ラ定マラン

局長 多數學生ヲ無方針ニ漫然補給スルモ何ノ益ナシ優良
者ヲ選ビ之ニ十分ノ補給ヲナシテコソ意義アル次第ナレ
ハ先ツ決定スヘキハ人数ナリ本件ハ金額カ問題ナルニ非
ス教育カ問題ナルナリ

公使 我方ハ金額ヨリ人数ヲ割出シナルヘク均霑ノ範圍ヲ
拡大シ以テ本問題ノ前途ニ横ハル障害ヲナルヘク排除ス
ルコトトナシ度シ

局長 公使ハ来年度ノ問題ヲ議スルニツキ現在ノ狀況ニ提
ハレ居ラルル傾アリ吾人ノ目的トスル所ハ要スルニ留学

數ノ人数タルヘシ

局長 此意見考慮セン、団匪事件賠償金ハ多數ニ留學生ノ
タメニ支出シ他ニ余裕ヲ残ササルコトハ貴国有識階級ノ
望マレサル所ナルヘシ然レトモ之ト同時ニ兩國文化ノ提
携ニハ學生ノ教養ハ極メテ緊要ノコト故或程度迄ハ右賠
償金ニ依ル資源ヨリ支出スルノ理由アルモノナリ

公使 局長ノ御好意ニ感謝ス、既ニ金額及人数決シタル上
ハ学校選択ニ關スル委員會ヲ作ラン

局長 公使ハ當ノ責任者ナルモ自分ニハ上ニ大臣アリ更ニ
其外ニ調査会及議會アリ此協定ノ結果ヲ實現スルニハ容
易ナラサル困難モアルヘキカ自分トシテハ全力ヲ挙げケテ
之ヲ達成ニ努力セン

学校選定ノ問題ハ何レ伊藤書記官ヨリ申上クヘキカ手続
ノ問題ナレハ来ル一月七日ノ会合ニ於テ決定セン

序ニ伺ヒ度キカ現在大学ニ在學スル支那留學生ノ人数ハ
何程ナリヤ

公使 官立大学約五百名ナリ

局長 サテ来年度ノコト決定セルニヨリ次ニ本年度ノコト
ヲ議セン

右ニ対スル貴見如何

公使 只今決定セル来年度ノ補給ヲ標準トシテ曩ニ御提議アリタル三十万円ヲ分配セン

岡部事務官 若シ右ノ如クセハ本年度ハ既ニ二三ヶ月ヲ余スノミナレハ實際上多額ノ剰余生スヘシ之ト共ニ優良学生ノ選ニ洩レタルモノハ本年度ハ勿論来年度以後モ何等學費補給ノ途ナカルヘキニ依リ右剰余金ヲ以テ此等ニ対シ何トカ整理ノ方法ヲ講シテハ如何

公使 御説ノ通トナシ尚余剰アル場合如何ニ之ヲ処分セラ

ルルヤ

岡部事務官 其場合ニハ之ヲ積立ツヘシ
公使 選ニ洩レタルモノヲ一併帰国セシムルハ危険故漸次機ヲ見テ送還スルコトトシ之ニ要スル費用ハ予メ右剰余金ヨリ別ニ取置クコト可ナラン

岡部事務官 今日ノ我国予算制度ニテハ如スコトハ不可能ナリ

公使及朱氏 震災後支那留学生送還ニ要セシ費用(三万五千二百二十円)ハ直ニ返還ノ途ヲ講スヘキニ依リ本年度學費補給ノ費目ヨリ支出セラレサルヲ希望ス

局長 過去ノ事件ヲ今更問題トナサレサルコト可ナラスヤ

公使及朱氏 学生ハ此費用カ対支文化事業特別會計ヨリ支出セラルルヤニ聞キ之ヲ不当ナリトシ張代理公使ノ責任ヲ問ヒツツアル故何トカ工夫シテ对支文化事業特別會計ヨリ現実ノ支出ナカリシコトトナシ度シ

岡部事務官 此金額カ其レ程公使館ノ迷惑トナルナレハ何トカ整理方法ヲ攻究セン但之カタメニハ同金額ヲ返還サルヘキコト勿論ナリ

張参事官 自分ノ立場上感謝ス

局長 本年度ノ問題ヲ今少シク解決セン、来年度ト同一標準ニテ本年度ニ於テ優良学生ニ補助ヲナス場合何月ヨリ之ヲナスヘキヤ

公使 来年一月ヨリ之ヲナシ度シ

岡部事務官 右補助ヲナスニツキ来四月ヨリノ新入学生ノコトモ考慮ニ加フル必要アリ

公使 毎年ノ卒業生及新入生ノ人数ハ六十名ト見ルコト適當ナラスヤ又優良学生選抜ノ場合ニハ自費生モ之ニ加フルコトトナシ度シ

局長 公使館ニ從來押寄スル留学生中ニハ自費生モ多数アリヤ

公使 否、自費生ハ極メテ少シ余程困窮セルモノノミナリ
岡部事務官 整理ニ関連シ從來留学生授業料ハ滞納勝ナルカ今後ハ各学生ニ納付ノ義務ヲ負ハシムルコトトシ之ヲ納付セス又学生トシテ面白カラサルモノハ学校側ニ於テ今後隨時除名シ差支ナキヤ

公使 可ナリ但自費生ノミハ右除名前一応之ヲ公使館ニ通告アリタク其場合ニハ一応当該学生ニ戒告ヲ与フヘシ

岡部事務官 滞納授業料ハ本年度剰余金ニテ整理スルコト

然ルヘシ

伊藤書記官 前年度ノ分モアルカ之モ併セテ整理サレタク
学校側ニテハ非常ニ迷惑シ居レリ

公使 右ノ通希望ス

局長 留学生中困窮シ帰国ヲ希望スルモノアレハ之ニツキ何トカ救護ノ途ヲ攻究セン

公使 如斯学生ナシ何トナレハ彼等ハ公使館ニ債權ヲ有スルノミナラス帰国スルモ日本同様ノ学校ナク又就職口モ見当ラサルニ依ル

局長 選ニ洩レタル学生ノ學費ハ如何ナル処ヨリ支出セラ

ルルヤ

公使 留学生ニ三種アリ第一ハ自費生ニシテ茲ニ問題ニナスノ必要ナシ次ニ官費生中ニハ官費ノ現実来ル省ト然ラサルモノトアリ各省ヨリ直接来ルモノハ別トシ然ラサルモノニ対シテハ崇文門税ヨリ毎月二万五千円宛支出スルコトトナリ居レリ

局長 此崇文門税ヨリノ支出ナルモノハ果シテ確實ナリヤ
公使 然リ自分出発前当局ト談合シ確實ニ支出セラルルコトトナセリ

岡部事務官 当事務局ニ於テ立案セル予算案ニハ学生ニ対スル學費補給ノミナラス学校卒業後尚研究ヲ継続セントスル所謂研究生ノタメニモ相当ノ補給ヲナス様計上セシカ右ハ主義上如何ナルモノナリヤ

公使 誠ニ結構ノ事ナリ

局長 然ラハ本件ニ関スル根本問題ノ協議ハ以上ノ通ニテ可ナリヤ又何等カ他ニ御意見ナキヤ

公使 ナシ

局長 先刻御話ノ委員会ハ如何ニ構成センコトヲ希望セラ

ルルヤ

公使 公使館ヨリ二名、外務省ヨリ一名、文部省ヨリ一名、学生総代一名ヲ以テ組織シ度シ

局長 此委員会ニ於テハ何ヲ議スヘキヤ

公使 吾人ノ間ニ協定セル所ニ從ヒ之カ現実執行ノ任ニ当ラシムヘシ

局長 毎月二万五千円ノ小切手ハ何処ヘ宛テ振出スヘキヤ

公使 公使館ニ宛テ振出サレ度ク公使館ハ協定ニ基キ現実之ヲ学生ニ分配スヘシ

局長 然ラハ結局委員会ハ右補給金ノ分配ノミヲナスモノナリヤ

公使 否、補助金分配ノ監督ヲナサシムヘシ

局長 学生ノ選抜ハ何人カナスヤ、文部省及文化事務局ト

公使館トニテナスコトトシ差支ナキヤ

公使 差支ナシ

局長 然ラハ此選抜ニハ前記委員会ハ關係ナキヤ

公使 然リ何等ノ關係ナシ

局長 学費補給ハ直接關係学校會計ヘ送金スル様ニナセハ可ナラスヤ

公使 然ルトキハ学生間ニ種々誤解ヲ生スヘシ

岡部事務官 公使館ヨリ外務省ニ委任状ヲ出セハ差支ナカルヘシ

公使 公使館ニテ一旦受取ノ上各学校宛ニ小切手ヲ振出シ度シ

岡部事務官 煩雜ナラン

公使 専務機關ヲ作りテ行フヘシ

岡部事務官 然ラハ公使館ノ受取ノ外給費学生ノ名簿ヲ貰フコトトナシ度シ

公使 勿論差上クヘシ

局長 結局委員会ナルモノノ権限ハ余リニ狭小ナレハ其必要アルヘキヤ

岡部事務官 学生総代ニ外務省当局カ面接ノ機会アルコトハ双方ノタメ好都合ナルヘシ

朝岡事務官 先刻本年度及来年度ノ優良学生補給額ハ一ヶ月一人七十円トナスコトトナシタルカ從來ノ官費生中ニハ毎月ノ学費ニ多寡アリ少キハ四十円位ナルモ多キハ七十何円ト云フ額ニシテ殊ニ先刻ノ御話ニテ崇文門税ヨリノ送金今後相当確實トナリ且之ニ依リ対支文化事務局関

一旦選抜セル学生中ニテモ其後学業及性格思ハシカラサルモノアレハ随時選抜学生ノ特典ヲ取消スコトトナシタシ

公使 右ハ我方ニ於テモ希望スル所ナリ依テ公使館ニ於テモ今後ハ方法ヲ設ケ留学生中思ハシカラサルモノハ取調ノ結果随時之ヲ貴方ニ通告シ以テ処分ヲ助力セン

局長 大体総テノ点ニツキ協定ヲ見タルニ依リ委員会ノ組織権限等細目ノ研究ノタメ更ニ来月七日又ハ八日ノ中御都合好キ日ニ第三回ノ会合ヲナサン

公使 何日ニテモ可ナリ

局長 然ラハ八日午後二時ヨリ第三回ノ会合ヲナサン

公使 当日迄ノ協定事項ヲ認メタル文書ニ双方署名調印スルコトトナサン

局長 署名調印ト云フ程角立チタルモノトナスノ要ナシ要ハ之迄話合ヒタルコトヲ将来ノ参考ノタメ単ニ文書ニ認メントスルニアルヲ以テ単ニ此文書ニ汪公使ト自分トノ「イニシアル」ヲ附スル程度ニ止メ可ナルヘシ

公使 右ニテ異議ナシ

局長 今回ノ会合ハ飽迄モ非公式ノモノニシテ自分トシテ

係ノ選抜学生以外ノ官費生ニ対シ從來各省ヨリ送金アルヘキ筈ノ学費全額ヲ支給スルコトトナレハ結局或官費生ハ成績優良ニシテ対支文化事業特別会計ヨリ学資ノ補給ヲ受クルタメ反ツテ從來当然ニ支給セラルルコトトナリ居タル学費ヨリモ少額ノ学費ヲ受クルコトトナリ自然此種ノ補給ヲ喜ハサルモノアルヘク如斯ハ留学生中ノ最モ優良ナルモノニ対シ対支文化事業特別会計ヨリ学費ノ補給ヲナサントスルノ趣旨ヲ没却スヘキニ依リ毎月支給額ハ從來官費生ノ受クル最高額ヲ下ラサルコトトシ人数ノ方ヲ加減シテハ如何

公使 其通りナリ

局長 サラハ月額七十円ニテ三百五十名ノ代リニ月額八十円ニテ三百名ニテハ如何

公使 從來ハ公使館ニテ授業料ヲ納ムルコトトナリ居タルカ今後各学生ニ納付セシムルコトトセハ一人月額八十円位カ至当ナルヘク大体一年総額ヲ三十万円見当トシ給費者數三百二十名、毎年ノ交代人数五十五名トナシタシ

局長 可ナリ

次ニ優良学生ノ選ハ随時變更シ得ルコトトナシタシ即チ

ハ上局其他外部ニ対シ出来得ル限りノ努力ヲ以テ協定ノ結果ヲ実現シ得ル様取計フヘキカ未タ之ヲ公表スヘキ時機ニ非サルニヨリ新聞及学生ニ対シテハ勿論本國政府ニ報告セラルル場合ニモ此点ハ特ニ注意セラレンコトヲ希望ス

公使 本件ニ関シ僅カ二回ノ会合ニテ如斯満足ナル協定ヲ遂ケ得タルハ本使ノ深ク感謝スル所ナリ

局長 自分モ公使始メ各位ノ御尽力ニ基キ斯クモ良好ナル結果ヲ見タルヲ非常ニ喜フ次第ナリ

(午後一時閉會)

(付記)

兩次ノ協議會ニ於テ日中當局了解事項ニ関スル覺書

大正十二年十二月廿九日及卅一日外務省ニ於テ対支文化事業ニ関スル非公式協議會ヲ開催シ汪公使ヨリ別紙覺書ヲ参考トシテ提出シ出淵局長トノ間ニ意見交換ノ結果大体左記ノ通意見ノ一致ヲ見タリ

列席者

(支那側) 汪公使、朱教育部特派員、張參事官、陳學務委員、錢秘書官

七、第三項乃至第六項列記ノ各事業ニ対シ日支兩國人ヲ以テ組織スル評議員會ヲ設クルコト尚其ノ人員ハ各評議員會ヲ約二十名トシ日支双方ヨリ各十名宛ヲ出シ別ニ日支双方協議ノ上支那人一名ヲ選ヒテ會長トスルコト

八、北京圖書館及研究所ノ敷地ハ支那政府ヨリ無償ニテ之ヲ提供スルコト

九、救恤費(賑災費)ノ名称ハ成ルヘク速ニ之ヲ慈善費又ハ其他ノ名称ニ改ムルコト

一〇、在本邦支那留學生ニ対シ來年度以降左記方針ニ依リ學費ノ補給ヲ為スコト

(甲)學費補給額ハ一人月額八十円トシ一律平等ニ補給スルコト

(乙)學費補給ヲ受クヘキ留學生數ハ毎年度總計三百二十名ヲ越エサルコト

(丙)前項學生ノ數ハ原則トシテ各省ノ選出國會議員數及ヒ其ノ団匪事件賠償金ノ負擔額ヲ標準トシテ各省ニ振當テ在本邦支那公使館ト文部省及対支文化事務局ト協議ノ上指定スル大學及專門學校在學生ノ内ヨリ之ヲ選抜スルコト

(日本側) 出淵対支文化事務局長、岡部事務官、伊藤書記官、朝岡事務官

記

一、日本側ニ於テ対支文化事業ヲ遂行スルニ當リ支那側有識階級ノ代表的意見ヲ十分尊重スルコト

二、団匪事件賠償金ニ基ク資金ハ主トシテ之ヲ支那人ノ為ニスル文化事業ニ使用シ山東省ニ於ケル學校、病院其ノ他現ニ日本団体ノ支那ニ於テ經營スル文化事業ニ対スル補助ハ専ラ山東關係ノ資金ヨリ之ヲ支出スルコト

三、圖書館並ニ精神科學研究所ヲ北京ニ設立スルコト

四、自然科學研究所ヲ上海ニ設立スルコト

五、前二項ノ事業ノ為支出スヘキ經費ハ追テ之ヲ定ムルコト

六、將來団匪事件賠償金ニ基ク資金ニ余裕ヲ生シタルトキハ更ニ左記事業ヲ実施スルコト

(甲)適當ノ地点ニ博物館ヲ設立スルコト

(乙)濟南ニ医科大学ヲ設立シ之ニ病院ヲ附屬セシムルコト

(丙)廣東ニ医學校及附屬病院ヲ設立スルコト

(丁)前項ニヨリ選抜セラルヘキ留學生ハ官費生ノミナラス自費生ヲモ含ムコト

(戊)一旦選抜セラレタルモノト雖其後ニ於ケル學業及品行不良ト認ムルモノニ対シテハ隨時學費補給ヲ停止スルコト

一一、在本邦支那留學生ニ対シ本年度ニ於テハ左記方針ニ依リ學費ヲ補給スルコト

(甲)第十項ニ掲クル來年度以降ノ補給方針ニ準拠シ選抜セラレタル學生ニ対シ補給ヲ為スコト

(乙)學費補給ハ大正十三年一月分ヨリ之ヲ為スコト

(丙)從來ノ滯納授業料ハ本年度經費ニテ整理スルコト

一二、在本邦支那留學生ニ対シ補給スル學費交付方ハ差當リ在本邦支那公使館ニ於テ之ヲ為スコト

(冒頭欄外註記)

汪公使及出淵局長「イニシアル」ヲ施シ各一通ヲ保有スル等ナリシカ公使ハ暫ク「イニシアル」ヲ見合ハセタキ旨申出テタルニ付協議事項ヲ記載セル覺書ヲ相互ニ交換スルコトトシ本書一通ヲ支那公使館ニ送付シタリ (岡部)